

1027



九月上旬々報

昭和十三年九月之旨  
北支那方面軍兵器部

九月上旬マ報目次

- 第一 補給ノ概況
- 第二 中央部ニ對スル補給申請並連絡
- 第三 兵器業務ノ指導並部隊トノ連絡
- 第四 押収兵器ニ関スル事項
- 第五 兵器資材ノ内地還送ニ関スル事項

附表

- 第一 補給諸般長ニ適標ニシテ補給品目員數表
- 第二 兵站命令ニ依リ補給廠ヲシテ交付セシメタル兵器品目員數表

第一 補給ノ概要

1. 隷下部隊ヨリノ補充請示ニ對シ之ヲ補充方第一表ノ如ク

補給諸廠長ニ通牒セリ

2. 方面軍兵站命令ニ依リ部隊ニ交付サレタル資材第二表ノ

如ク

第二 中央部ニ對スル補給申請並連絡事項

1. 高射砲隊裝備変更ニ関シ左記ノ如ク申請セリ

左記

第二十師團第一第二野戰高射砲隊ノ十一年式高射砲四門機  
能不良ニ付キ八八式ニ裝備變ハセラレ度申請ス

2. 第一項申請ニ對シ左記ノ如ク返電ニ接ス

左記

3、九月六日方兵電第八二七號ヲ以テ貴軍司令官ヨリ大佐宛申請ノ件ハ八八式ト交換ス  
 兵器本廠長ヨリ左記ニ依リ戰車裝甲車牽引車並ニ自動車、修理及援助 爲 修理要旨ヲ派遣スル旨通牒アリ(兵本乙第二四五號)

左記

- 1、人員 技師 六 工員 三九
- 2、期間 九月上旬ヨリ約一ヶ月
- 4、大司電第四一一號ニヨリ 藤井部隊行キ自動車七十二輛ハ神隆丸ニテ八日出帆セシ旨電報アリ
- 5、野戰兵器長官ニ對シ自動車燃料運送方一時中止セラレ度通牒ス  
 (方軍兵輜第一二二號)
- 6、九月二日天津第一野戰自動車廠倉庫火災ノ件野戰兵器長官ニ通牒ス(方兵電第八一八號)

7. 燃料脂油類調査旬報野戦兵器長官ニ提出ス
8. 七月四日大陸指第一八五號屬表、彈藥中八月三十一日迄ニ受領  
濟ノモ、調査シ野戦兵器長官ニ通牒ス(方兵電第八〇九)
9. 特種彈藥効力調査報告(第二十師團第九師團、分)野戦兵器長官  
ニ提出(方軍兵彈第一四三)
10. 支那駐屯憲兵隊編成改正ニ伴フ兵器過不足表兵器本廠長ニ提出  
(方軍兵兵第三八八)
11. 第二軍兵站兵器部第十四師團兵器部獨立混成第五旅團兵器業  
務詳報兵器長官ニ提出ス
12. 支那事變關係統計表調製上、質疑指示セラレ度野戦兵器長  
官ニ照會ス(方軍兵兵第三九二)
13. 昭和十二年七月七日以前前支那駐屯諸部隊ヨリノ委託調辦取  
消方兵器本廠並關係各支廠及通信學校ニ通牒ス(方軍兵兵第  
三九五)尚右ノ旨前支那駐屯諸部隊ニ通牒ス

14. 七月十一日方軍兵兵第三〇九號提出ノ(戰車八聯隊、過不足表)

不足兵器或ルヘノ速ニ補填セラレ度兵器本廠長ニ請求ス(方軍

兵兵第四〇四)

15. 第二十一師團補給用トシテ左記交付セラレ度野戰兵器長官ニ

通牒ス(方兵電八〇八)

左記

九二式十三耗機関砲 普通彈々藥筒 二〇〇〇〇

徹甲彈々藥筒 一〇〇〇〇

第三 兵器業務ノ指導並部隊トノ連絡

兵器業務ノ指導、主ナルモノ、左ノ如シ

(1) 第一軍駐蒙軍作戰地域内所在ノ航空部隊野戰兵器補給ニ関

シ之ヲ實施方法ヲ指示ス

(2) 兵器部長會議ノ際提出ノ質議事項回答獨立混成第四旅團及

- 第百十四師團兵器部へ夫々回答ス(方軍兵兵第三八七、三八九)
- (3) 第二十一師團到着セルヲ以テ方面軍兵器業務ノ狀況ヲ知得セシムル爲参考トナルヘキ書類ヲ送付ス(方軍兵兵第三九四)
- (4) 兵器部長會議終了ニ伴ヒ各兵站地ニ於ケル兵站諸部隊ノ兵器掛(兵器掛ナキ部隊ハ喪務掛)ヲ集合シ教育指導スルコトニ定メ夫々通牒ス(方軍兵兵第四〇三)
- (5) 東島大尉ハ舟艇蒐集並業務連絡ノ爲三日ヨリ五泊六日濟南徐州方面出張ス
- (6) 原少佐ハ自動車業務連絡ノ爲三日天津ニ出張即日歸還ス
- (7) 福山少尉ハ銑鉄處理並業務連絡ノ爲七日ヨリ三泊四日石家莊陽泉ニ出張ス
- (8) 中田少尉ハ押収迫撃砲整理並砲具調辦業務連絡ノ爲六日ヨリ一泊二日天津ニ出張ス
- (9) 有村火工曹長ヲ押収迫撃砲試験射撃指導ノ爲天津ニ出張即

日歸還ス

(10) 佐藤少佐ハ補給廠長會議參列、爲九日ヨリ一日天津ニ出張ス

2. 部隊ト連絡概要左ノ如シ

(1) 曩ニ第十六師團ニ對シ九六式輕機関銃返納期日及場所ヲ照會中ノ處八月七日徐州砲兵廠ニ返納スル旨電報アリ

(2) 八月三十日附萱葎第四四號ニ依リ増加裝備ノ件ハ當分ノ間實施困難ノ旨通牒セリ(方軍兵銃第七五)

(3) 高射砲第十五聯隊ヨリ増加裝備トシ左記兵器申請アリタルモ實施困難ノ旨通牒ス

左記

小銃	千五ツ	小銃	二五
輕機関銃	二		
小銃實包	一五〇〇		

輕機関銃實包 二〇〇〇

(4) 八月二十五日附蒙兵甲第六〇號ニ依ル照會、件遂次補充ス  
必要ナルモノヨリ請求書提出セラレ度旨駐蒙軍兵器部長ハ

(方軍兵兵第三八六)

(5) 教育用並演習用トシテ請求中ノ彈藥ハ概テ十月上旬交付スル旨  
各獨立混成旅團及第二十六師團兵器部ニ通牒ス(方軍兵彈第一五二)

(6) 九月一日陸支密第三二九五號交付ノ茶褐藥ハ太原軍管理工場  
ニ於テ調製ノ押收迫撃砲彈炸藥ニ充當ノモノナル旨第一軍兵器  
部砲兵本廠並太原特務機関ニ通牒ス(方軍兵彈第一四〇)

(7) 長期作戰ニ應スル兵器整備、爲兵器現況報告實施檢査上  
十月三十日迄ニ報告方方面軍直轄部隊ニ通牒ス(方軍兵兵第  
四〇二)

(8) 太原軍管理工場ニ於テ調製中ノ七種五迫撃砲彈左記、如

ク配當スル旨第一軍兵器部長ニ通牒ス

左記

第一軍 三〇〇〇  
 方面軍 二〇〇〇 (砲兵本廠へ送付)

第四 押收兵器ニ関スル事項

人 曩ニ方軍兵器第五一號ヲ以テ通牒セシ押收駄鞍ニ関シ左記  
 如ク回答アリ  
 第一軍ヨリ

左記

品目	新品	古品	廢品
滿州駄鞍	三〇〇	一二〇	一〇〇
支那駄鞍	一二〇	三〇	四四〇
機關銃駄鞍			五〇

特殊駄鞍	四〇	八〇〇
但古品ハ相當加修セハ使用見込ナリ		
砲兵本廠ヨリ		

輜重駄鞍	四四	除屬品
機関銃馬具器具箱及彈藥箱用	二六	"
山砲駄馬具砲身用	四	"
同 搖架用	四	"
同 大架用	三	"
迫撃砲駄馬具彈藥箱用	一七	"
機関銃駄馬銃用	五	"
滿洲駄鞍	一五	"
代用機関銃駄馬具彈藥箱用	四九	"

備考 彈藥箱用駄載匡保管数量 二〇  
 駐蒙軍兵器部ヨリ

2.

品名	目	員数	摘	要
品				
馱	鞍	九	損	品
乘	鞍	四二	完	成
燈	草	七七	"	"
燈	草	七九	"	"
鞍	褥	四〇	"	"
鞍	覆	四〇	"	"
腹	帶	五六	"	"
小	袴	一〇	"	"
馱	鞍 設 俵	一八	途不明	陸身用一、襪、茶用三、他八用
同	本 製	九九	不制式品ニテ内六九八載箱用 ニ過ス三〇八用途不明	

支那駐屯憲兵隊長ヨリ左記押收兵器野戦砲兵本廠北京支  
廠ニ送付シタル旨通牒ニ持ス(支憲喪第一五)

左記

拳銃 九  
獵銃 一

小銃 實包 一三

同 藥莢 五

拳銃 實包 四

無線電信機 一

3. 工業用エーテル三〇缶押收セルヲ以テ大坂支廠ニ還送ス

(方兵電第八〇七)

4. 九月五日関兵彈乙第三五七號照會ノ實包製造工作機ハ

奉天造兵廠ノ移管済ノ旨関東軍兵器部ニ回答ス(方軍

兵彈第一四二)

第五 兵器資材ノ内地還送ニ関スル事項

1. 本旬内地ニ還送セシ兵器資材左ノ如シ

左記

九日四時塘沽出帆、返隆丸ニテ

小倉支廠宛

鉄 屑 一九八三〇〇 匁

押收鉄屑 二三一七〇〇 匁

押收兵器 一九〇 匁

大隈支廠宛

三八式野砲打殼藥莢 三八一 匁

鉛、錫、亜鉛、輕素鉄 二一四〇 匁

九二式歩兵砲打殼藥莢外 六九二 匁

八九式十五種加農砲薬品 二 匁

九二式十種加農砲 外 八〇 匁

東京支廠宛

九一式十種打殼藥莢 一〇三 匁

五日塘沽出帆長江丸ニテ

廣島兵器支廠宛

日本製子工ヨ輕機関銃 一〇〇挺

支駐兵業務用並總豫備トシテ保管中、藥莢類左記、如

ク小倉支廠ニ還送ス

左記

四年式十五榴藥莢中	一、〇〇〇
三八式野砲藥莢	二、〇〇〇
四一式山砲藥莢	四、八九五
九二式歩兵砲藥莢	二、〇一一

第一表

品目			員数	摘要
砲具部				
九	閉鎖機	擊莖	一	
九	擊莖	ばね	一	
九	引鉄		一	
同	車輪		一	
八	八式野戰高射砲	車軸	一	
九	九二式十種加農		二	
同	彈藥箱	用	三六	
迫撃砲	駄馬具	砲用	一二	
四一式山砲	駄馬具	彈藥箱用	一二〇	
九二式機關銃	駄馬具	載箱用	五四	
十二年式曲射歩兵砲	駄馬具	彈藥箱用	四四	
十年式平射歩兵砲	駄馬具	彈藥箱用	八	

釘	引	八寸	グリ	鐸	カ	式							
						ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
抜	廻 鋸 尺一	両 歯 鋸	セ リ ン	着 棒	バ イ ト	駐 鋤	同 け 取	緊 塞 環	拉 繩	抽 筒 子	安 全 栓	杠 子 ば ね	托 座
一	各 二 〇 本	一	一 缶	一 五 〇 本	二 〇 缶	左 右 各 一	一	一	二	一	一	一	

1040

品目	員数	摘要
品目		
手引	一	
手廻 グラインダー	一台	
ドリル 外	五 八 八 点	
将校乗馬具、勒頭絡	二	
同 旅囊外	三 三 点	
九二式歩兵砲照準具、眼鏡	二	
同 砲口蓋	七	
同 砲尾蓋	四	
同 表尺蓋	六	
同 砲身覆	七	
同 屬品箱(装填品共)	一	
同 彈藥箱(收入品共)	一 〇	
同 標 標乙	一 〇	

同	予備車後車	一	
同	彈藥車後車	二	
同	砲身覆	一	
九一式十種榴彈砲車輪		一	
三八式野砲予備品車		一	
同	部品及屬品	二〇三點	
改造三八式野砲予備拉繩		四	
四一式山砲	部品	八五點	
四一式山砲表尺(除眼鏡)		一	
同	外	五四點	
九四式三七耗砲前方砲身覆		二	
同	後車(屬品共)	二	
同	同前車(屬品共)	二	
同	彈藥車組	二	

品目	員数	摘要
八九式双眼鏡(屬品共)	六	
九三式双眼鏡(囊共)	五	
九三式五十種觀測鏡	六	
九三式野戰輕觀測遠機三脚架	二	
砲兵觀測具 砲隊鏡	三	
三七式双眼鏡	二	
共通兵器野繫頭給外	二七三七六点	
將校乘馬具	九	
同 屬品	一〇二〇〇点	
三八式機關銃馱馬具銃身托平被罩	六九六点	
砲兵鞍馬具前中馬用外	四七二点	
三八式野砲部品	三九二点	
八八式野戰重測遠機	一	

銃器ノ部		鞍工材	料	六三六	点
品	目	員	数	摘	要
三八式	騎銃		一		
十四年式	拳銃		二		
同	懸紐外		一六		
三年式	機関銃擊莖		四三		
十年式	軽機関銃抽筒子口外部品		三五二		
九二式	重機関銃三備銃身外部品		一八		
八九式	重擲弾筒 屬品共		七		
同	逆鉤外部品		一二五		
三十年式	銃劍		一三		
三十二年式	軍刀乙先子環		六		
三八式	歩兵銃部		四一		



オート三輪車	一	
三八式輜重車予備品	六七六	
三十六年型ホレー自動車部品カセット	一台分	
同 ヒストリニング	一台分	
同 工具類	一組	
同 エキゾスト並インレットバルブ	一台分	
同 配線	一台分	
同 ガソリンポンプパイプ部品	一三点	
同 ブレーキライニング(リベット)	一台分	
同 フォード三十七年型ラジオエーター	三	
同 蓄電池	二八	
同 部 分 品	三四〇九	
同 國産乗用自動車	一	
同 八九式中戦車機関本体	一	

品目	員数	摘要
八九式中戦車發動機部品	一一三三點	
同 冷却装置部品	二二點	
同 変速装置部品	一四點	
同 連帶装置部品	六〇點	
同 導向変速機部品	三二六	
戦車部品	二一六八點	
九四式軽装甲車部品	三二六二	
九三式六輪乗用車部品	三一六〇	

## 第二表

品目	員数	摘要
支那馬用馱鞍	二五〇〇	
障碍物破壊筒	二〇	
火焰發射機	五	
爆藥	五包	
應急道路構築資材	二組	
九二式三十種探照燈	一	
ツツク製搬水器	一	
代用背囊	一〇〇〇	
八、二種迫撃砲彈	五六〇〇	
磯石式二十五人用電話交換機	二	
電鈴式電話機	五〇	
電柱 <small>十五米</small>	五〇〇	
磯石式五十人用電話交換機	二	

七、九耗小銃實包	二五〇〇〇〇	
六、五耗小銃實包	一五〇〇〇〇	
輕渡河橋	八〇〇米	
同實包	一二〇〇〇〇	
押収千五三輕機關銃(七、九耗)	三〇	
土囊	二五〇〇〇〇	
杉丸太	一四〇〇〇	
角材	二〇五〇	
九四式壓縮空氣ホニョ車	二	
九四式水上發煙筒(甲)	一〇〇〇〇	
九四式山砲同	一〇〇〇〇	
四一式山砲發煙彈々藥筒	一〇〇〇〇	
九四式山砲發煙彈々藥筒	九〇〇〇	
四式山砲發煙彈々藥筒	九〇〇〇	

品	目	頁	数	摘	要
三八式銃	實包	一一九	七〇〇〇		
三年式機関銃	實包	一〇一	〇〇〇		
九二式重機関銃	實包	一三六	三〇〇〇		
九一式曳火手榴彈		一七八	〇〇		
十年式曲射歩兵砲	榴彈	四八	二〇		
三八式野砲	榴彈々薬筒	八〇	〇		
同	榴霰彈々薬筒	二〇	〇		
四一式山砲	榴彈々薬筒	三一	〇〇		
三一式山砲	榴彈 (薬筒共)	六四	〇		
十年式擲彈筒	照明彈 甲	二〇	〇		
押收七九耗小銃	實包	一〇〇	〇		
同	八二耗小銃	六〇	〇		
同	一三式山砲榴彈々薬筒	一五	〇		

九四式山砲榴彈々薬筒	四二三六	
みどり筒	三〇〇〇	
特殊發煙筒	五〇〇〇	
九〇式航速測定機	一	
九四式六種對空双眼鏡	一	
三一式山砲榴彈	三六六〇	
九二式十加榴彈	一〇〇〇	
九一式十榴尖銳彈	三〇〇〇	
九四式山砲尖銳彈々薬筒	一〇〇〇	
十二年式平射歩兵砲榴彈々薬筒	三五〇〇	
八九式重擲彈筒榴彈	二〇〇〇	
九七式手投曳火榴彈	一〇〇〇	
八八式瞬發信管(野山如)	三〇〇	
同 十年式山砲榴彈々薬筒	二〇〇	

品目	員数	摘要
九四式山砲尖銳彈々薬筒	七七二	
同 榴霰彈々薬筒	五〇〇	
九二式歩兵砲榴彈々薬筒	二五〇〇	
九四式三十七耗砲榴彈々薬筒	一五四〇	
九二式十三耗MC普通彈々薬筒	二二〇〇	
同 徹甲彈々薬筒	八〇〇	

1056

極  
秘

昭和十三年  
二月  
第二旬  
衛生業務旬報

北支那方面軍軍醫部

調製官

北支那方面軍軍醫部長事務取扱陸軍軍醫中將三木良英

昭和十三年二月 自十一日 至二十日 衛生業務旬報 於北京北支那方面軍軍醫部

一、部隊行動ノ概要

1 方面軍司令部

(1) 方面軍司令部ハ依然北京ニ在リ

(2) 新タニ第百十四師團ヲ北支方面軍ノ戰鬥序列ニ編入セラレ、該師團

ハ二月十九日大連上陸後鐵道ニヨリ保定及滄州附近ニ至リ爾後概

ネ永定河及白河以南ノ方面軍直轄管區内ノ防衛ニ任スル爲兵力ヲ

配備中

(3) 第百十四師團ノ到着ニ伴ヒ同師團長及支那駐屯混成旅團長ノ指揮

下ニ入りタル部隊左ノ如シ

支那駐屯混成旅團長ノ指揮下ニ入ル部隊

第四師團第二野戰高射砲隊

第四師團第三野戰高射砲隊

第四師團第四野戰高射砲隊

第三師團第四野戰照空隊

第三師團第六野戰照空隊

第七師團後備步兵第二大隊

第八師團後備步兵第四大隊第一、第二中隊

第一百十四師團長ノ指揮下ニ入ル部隊

第七師團後備步兵第一大隊

第七師團後備步兵第四大隊

第八師團後備步兵第二大隊

第八師團後備步兵第四大隊（第一、第二中隊欠）

第十四師團後備步兵第三大隊

第八師團後備野砲兵第一中隊

(4) 左記部隊ハ夫々附記ノ如ク北支方面軍ノ戰鬪序列ヨリ除キ内地歸還

セシメラル

第一軍他兵情報班

右ハ第一軍戦闘序列ヨリ除キ當該動員管理官ノ指揮下ニ入ル  
 第三野戦化學實驗部

右ハ北支方面軍戦闘序列ヨリ除キ當該動員管理官ノ指揮下ニ入  
 ル

## 2 第一軍

第一軍ハ豫寇ノ如ク二月十一日ノ佳節ヲ期シ攻撃ヲ開始ス

軍司令部ハ十二日迄ニ其主力ヲ彰徳戦闘司令部ニ集結ヲ完了シ作戰  
 指導ニ任シアリ

### (1) 第十四師團

師團ハ十一日一齋ニ攻撃ヲ開始シ魏家營、陽陰附近ノ敵陣地ヲ擊  
 破シ十三日ヨリ三縱隊トナリテ敵ヲ追撃シ十五日ヨリ十七日ニ亘  
 リ淇縣四南方清河河畔竝輝縣及山彪鎮附近ノ堅固ナル敵陣地ヲ攻略  
 輝縣、後李郭、東張門ノ線ニ進出後該地附近ニ兵力ヲ集結シ十七  
 日館支隊ヲ合セ二縱隊トナリ道清鐵道ニ沿フ地區ニ追撃シ二十日  
 清化鎮及金城ノ線ニ進出ス

## (2) 第十六師團

師團ハ第十四師團、第百八師團ノ前進ニ伴ヒ逐次彰徳、濮陽、臨清、保定間ノ警備ヲ繼承スルト共ニ銳意爾後ノ作戰ヲ準備ス  
 十六日歩兵第二十九旅團長ノ率ヒル部隊ヲ以テ道口鎮ヲ經テ新郷橋輝ニ進出シ軍ノ左側竝彰徳、衛輝間ノ鐵道竝兵站施設ノ警備ニ任ス

## (3) 第二十師團

前旬來集結中ナリシ師團ハ南部山四省攻略ノ爲行動ヲ開始ス  
 先遣隊ハ二月十一日大谷ヲ出發シ十三日平遙城ノ敵ヲ擊滅シ引續キ十六日休休ヲ攻略シ靈石附近敵陣地ニ對シ攻撃準備中  
 師團主力ハ十五、十六日榆次附近ヲ出發シ大谷、平遙、休休道ヲ前進シ旬末休休附近ニ進出シ靈石附近敵陣地ヲ攻撃準備中  
 右側支隊ハ十一日榆次附近ヲ出發十六日平遙出發考義、白壁關、九峪、大麥郊鎮附近ニテ有力ナル敵ヲ擊破シ川口鎮附近ニ進出ス

## (4) 第百八師團

師團ハ其主力ヲ前旬來ヨリ邯鄲附近ニ集結シ潞安平地攻撃ノ爲右支隊、先遣隊、主力ノ順ニ邯鄲ヲ出發前進行動ヲ開始ス到ル所ニ敵ヲ撃破シ旬末潞安ニ進出之ヲ占領ス

## (5) 第百九師團

師團ハ離石附近ノ敵ヲ黄河以西ニ撃破スルニ決シ十二日前進行動ヲ開始シ文水北方地區ニアリシ敵ヲ撃破文水城ヲ占領敵ヲ追撃シツ、十七日汾陽城ヲ攻撃之ヲ占領ス

## 3 第二軍

軍司令部ハ濟南ニ在リ

軍ハ濟寧、鄒縣南方ヨリ山東軍ノ一部及四川軍主力ニ對スル攻撃ヲ開始スルト共ニ一方膠濟沿線敗殘兵ノ掃蕩ニ任ス

## (1) 第五師團

師團司令部ハ依然青島ニ在リ

師團ハ膠濟沿線敗殘兵ノ討伐、治安維持ニ任スルト共ニ一部隊ヲ

以テ第十師團ノ作戰ニ協力ス

(2) 第十師團

師團司令部ハ十二日兗州ニ前進ス

濟寧、鄒縣方面ハ山東軍及四川軍主力ノ攻撃スル所トナリタルヲ以テ師團ハ主力ヲ以テ之ヲ攻撃シ同地ヲ確保シ其ノ他ノ部隊ハ各守備地區ノ掃蕩ニ任シアリ

4 支那駐屯混成旅團

依然北京ニ在リテ同地ノ警備及治安維持ニ任スルト共ニ第四百十四師團ノ北支到着ニ伴ヒ永定河及白河以北地區ノ防衛ニ任ス

5 臨時航空兵團

兵團司令部ハ北京ニ在リ

兵團ハ前旬ニ引續キ一部ヲ以テ第二軍ニ、主力ヲ以テ第一軍ノ作戰ニ協力中

6 兵 站

兵站監部ハ依然天津ニ在リ

保定——正定間京漢線ニ對スル匪團ノ襲撃益々頻繁トナリ之カ討伐指導ノ爲戰鬪司令所ヲ保定ニ開設シ津浦沿線ニ於テ討匪中ノ濱ノ上支隊ヲ中部京漢線方面ニ増援セシメ岩井支隊ト共ニ之カ討伐ニ任シ共匪ノ根據地タル定縣、吳村、亭鎮、唐縣等ヲ擊破シ附近ノ掃蕩ヲ實施中

二、衛生機關業務ノ概要

- 1 旬末衛生機關ノ配置附圖第一ノ如シ
  - 2 十一日本職臨時東京第一陸軍病院長ニ充用セラレ第一軍軍醫部長山本少將方面軍軍醫部長ニ充用セララル
  - 3 十三日支那事變ノ經驗ニ基ク意見ヲ蒐集シ野戰衛生長官ニ提出ス
  - 4 十二日患者後送ニ關シ左ノ如ク關東軍軍醫部長ニ連絡ス
- 「十四日午前十一時北京發丁病院列車ヲ檢車ノ爲奉天ニ廻送ス骨折患者約一〇〇其他一〇〇計二〇〇ヲ後送スル豫定ナリ詳細ハ兵站軍

醫部長ヨリ後報ス

5 十二日病院列車運行ニ關シ第一車車醫部長ニ左ノ如ク連絡ス

「鐵道破壊ノ爲石家莊方面へノ病院列車ノ運行ヲ取止メ其間第四病

院列車ヲ檢車ノ爲奉天ニ廻送シ二十日頃貴地ニ運行セシムル豫定

石家莊患者多數ナレハ輕症者ヲ廻送列車ニテ北京ニ廻送セラレ度

6 十六日病院列車運行ニ關シ左ノ如ク關東軍車醫部長ニ電報ス

「丁病院列車ハ檢車ノ爲奉天ニ在リ

同列車檢車濟後皮病院列車ヲ奉天ニ廻送ノ豫定ナリ皮病院列車ノ在

奉間（本月中）代用トシテ第六病院列車ヲ當車管區内ニ運行セシメ

度御配慮ヲ乞フ

7 同日天津、北京ニ於ケル患者收容力増加ニ關シ關東軍車醫部長ニ左記

電報ス

「天津、北京兵站病院ノ收容患者漸次増加ノ爲先日醫務局長指示以

外ノ患者モ貴車ニ後送セリ諒承ヲ乞フ

尙至急天津ニ收容餘力アラシメ度ニ付第六病院列車以外ニ一病院列車ヲ天津ニ運行シ貴軍病院ニ收容スル如ク配慮アリ度」

8 十七日衛生機關及收容患者調査ニ關シ左ノ如ク第一車、第二軍醫部長ニ電報ス

「二月二十日現在ニ於テ貴軍兵站衛生機關配置及收容患者、内地還送見込、滿洲後送見込敷調査ノ上航空使ニテ送付セラレ度」

9 十八日醫學會招待者ニ關シ左ノ如ク醫務局衛生課長ニ照會ス

「日本醫學會ニ支那醫學者招待セラル、ヤ返、招待セラル、場合細部ノ件至急通知セラレ度、今ヨリ工作スルノ要アリ」

10 旬間醫務局長ニ報告シタル各師團ノ損害ノ概要左ノ如シ

十二日

十一日第十四師團ノ損害戦死三、戦傷一六發生ス

十三日

十日午後六時敵機臨淮關ノ爆撃ニ際シ戦死六、戦傷一、發生ス（第二軍）

## 十四日

第一軍十里堡附近戦闘ニ於ケル損害

1 二月十一日土肥原部隊十里堡魏家營附近ノ戦闘ニ於ケル損害戦死三七（内將校一）戦傷死三戦傷一〇八（内將校四）

2 二月十一日第一軍通信隊第四十二中隊ハ彭徳甯方十里堡附近ニ於テ敵地雷爆發シ戦死一戦傷七（内重症五）發生ス

3 第一軍通信隊無線電信第二十三小隊ハ十里堡ニ於テ昇未混入セル井水ヲ飲用シ中毒患者三名發生ス經過良好ナリ

## 十五日

1 十三日曲阜南方八軒ニ於ケル第十師團ノ損害戦死八（内車屬二）  
戦傷九

島田少將（歩三三旅長）大腿部軟部盲管銃創（輕傷）ヲ受ケタル  
モ速ニ治癒ノ見込

2 十三日平遙ニ於ケル第二十師團ノ損害戦死一戦傷二

十六日

1 第十四師團十三日柳井附近ノ戦闘ニ於ケル損害歩二戰死八、傷

七八

2 第二十師團十三日平遙附近ノ戦闘ニ於ケル損害戰死五、戰傷三〇

(除前報告)

3 十三日汶上ノ戦闘ニ於ケル第十師團ノ損害戰死二七、戰傷七〇發

生ス

11 旬間内地遠送患者ニ關シ醫務局長ニ報告シタル要旨左ノ如シ

月日	戰傷	平病	計	出港灣
十二日	五九	一二一	一八〇	秦皇島
十六日	五六	一九一	二六七	秦皇島
		三	三	青島

三、患者輸送ノ狀況

旬間患者輸送ノ狀況ハ輸送機關ノ充實ト交通線ノ確保トニヨリ概々圓滑ニ實施セララル

第三軍方面ノ患者ハ夫々石家莊ニ收容シ遂次北京及天津ニ後送ス

第二軍方面ハ黃河鐵橋ニ代ル木橋竣工セシ爲患者ノ輸送遂次圓滑ニ實施セララルニ至レリ

(1) 旬間病院列車ノ運行狀況左ノ如シ

月日	發車驛	到着驛	病院列車名
二月十一日	北京	秦皇島	第五病院列車
二月十二日	天津	德縣	第四病院列車
二月十三日	德縣	天津	第四病院列車
二月十四日	秦皇島	北京	第五病院列車
二月十五日	北京	奉天	第四病院列車
二月十五日	北京	秦皇島	第五病院列車

二月十七日	秦 阜 島	北 京	第 五 病 院 列 車
二月十九日	北 京	秦 阜 島	第 五 病 院 列 車

(2) 病 院 船 ニヨリ内地還送シタル患者ハ四二七名ニシテ内戦傷一一五

戰病三一ニトス

(3) 病院列車ニヨリ關東軍ニ後送シタル患者ハ二〇八名ニシテ内戦傷六

一戰病一四七トス

四 衛 生 材 料 補 充 並 補 給 ノ 狀 況

1 十四日附方軍醫藥第九六號ヲ以テ支那駐屯兵團及獨立混成第二乃至第

五旅團編成要領細則第十八條ニ依ル不足衛生材料ヲ附表第一ノ如ク陸

軍大臣宛申請ス

2 旬間衛生材料天津到着ノ狀況左記ノ如シ

左 記

- 陸支密第一〇七五號ニ依ルモノ 六二梱
- 陸支密第一七七四號ニ依ルモノ 二二八梱
- 陸支密第一八三九號ニ依ルモノ 三梱
- 陸支密第二五六九號ニ依ルモノ 二一五七梱

以上十五日到着

陸支密第一七七四號ニ依ルモノ 九九柄

陸支密第二五九六九號ニ依ルモノ 一五八七柄

3 十一月第二十六師團ニ野戰エツキス放線器械一組ヲ交付ス

4 十二月八日附總衛乙第四號(陸支密第三三一八號)交付通牒ニ依ル愛

國第十五鐘紡檢療用自動車一組ハ十八日天津ニ到着セルヲ以テ翌十九

日第一軍(彰德)ニ交付ス

5 十二月十八日附方軍醫藥第三一六號ヲ以テ請求セル腸チフス豫防接種

液二六〇〇人分(支那駐屯混成旅團入營兵ノ分)ヲ補充員等人員増加

ノ爲七〇〇〇人分ニ變更交付方十四日衛生課長宛電請ス

6 十五日第一車ヨリ毒物検査ノ爲各種毒物檢知紙送附方電請アリタルヲ以

テ北京臨時防疫部ニ於テ調製セシメ十六日檢知紙中昇永用ノミヲ先ツ

7 空輸ス 十六日支那駐屯混成旅團及獨立混成旅團編成用材料トシテ瓦斯治療囊

甲一六具向內一〇具ヲ第二野戰衛生材料廠ヨリ野戰本倉庫ニ保管

8 轉換セシム 十七日痘苗ヲ左記區分ニ依リ交付ス

左記

第一軍

三〇、〇〇〇人分

第二軍

三〇、〇〇〇人分

方面軍

五二、五〇〇人分

9 十九日第一軍ヨリ防疫部用トシテ兔一〇匹、モルモツト三〇匹、マウス

一〇〇匹交付方電請アリ二十一日交付ス

10 十九日瓦斯壞疽血清二〇〇瓶、アスピリン錠五〇、〇〇〇筒ノ空輸方第

二十六師團軍醫部ヨリ電請アリ二十日交付ス

11 二十日支那駐屯混成旅團ニ連續體溫測定用トシテ體溫計二六〇筒ヲ

交付ス

12 旬間補給ヲ命シタル狀況附表第二ノ如シ

五 一般衛生狀況

1 患者ノ狀況

(1) 旬間新患總數六、四〇九名（内軍屬六九）ニシテ戰死四〇七、戰傷一、六四

二（内軍屬一）戰病四、三六〇（内軍屬六八）トス

(2) 入院患者總數二八六九名（車屬一一）ニシテ戰傷一、二九三、戰病一、五七六（内車屬一一）トス

(3) 主要疾患ハ赤痢四、腸チフス一、發疹チフス一、流行性腦脊髄膜炎五、「マラリア」二、假痘一、結核性疾患三七、脚氣二、急性咽頭炎五、八、六、急性胃腸炎一九二、急性氣管支炎三八九、感冒三六三、花柳病一五〇、外傷四四二トス

(4) 旬間各師團戰死傷ノ狀況附表第三ノ如シ

## 2 氣 象

作戰地一級ノ氣象ハ概テ酷暑期ヲ脱シ逐次温暖ニ向ヒツ、アリ、天候ハ快晴ヲ持續シ風少ナク感冒性疾患ハ漸減ス

中央氣象臺北京觀測所ニテ測定セル氣象附表第四ノ如シ

## 3 被 服

第一軍方面ニ在リテハ作戰行動開始以來各師團共概テ防寒被服ヲ着用スルノ他二——三人ニ一枚宛ノ毛布ヲ携行セシメアリ

各兵團共被服ノ補修、保清ニ勵シテハ銳意努力シ被服移動修繕場ノ

4 糧 秣  
進出ト相俟チテ逐次所望ノ域ニ達シツ、アリ

糧秣補給ノ狀況ハ前旬ニ引續キ圓滑ニ實施セラル特ニ第一軍作戦行  
動部隊ニ對シ補給ノ圓滑ヲ期シ概ネ支障ヲ認メサル狀況ニアリ  
副食物ハ追送品ノ他現地調辨ニヨルコト前旬ニ同シ

5 宿 營  
宿營ノ狀況ハ前旬ト大差ナク第一線部隊ハ支那民家ニ村落露營ヲ實  
施ス

6 給 水  
給水ノ狀況ハ概ネ賑調ニ實施セラレアリ  
旬間第十四師團方面十里舖ニ於テ第一軍通信隊ノ兵員三〇名井水ニ  
投入セル昇汞ニ因リ中毒症狀ヲ起シタル例アリ  
本例ニ鑑ミ各隊ニ對シ昇汞、砒素、青酸検査用試験紙ノ配給ヲ圖ル  
ト共ニ一般將兵ノ毒物検査法ニ對スル識得ノ向上ニ努メ以テ此種災

害ノ豫防ニ關シ遺漏ナキヲ期シアリ

六 防疫並衛生施設

1 第五師團ニ於ケル流行性腦脊髄膜炎並「バラチフス」ハ蔓延ノ徴ナ

ク概ネ終熄セリ

2 旬間全車ニ對シ痘苗ヲ配給シ痘瘡豫防ニ遺漏ナキヲ期セリ

七 其他必要ト認ムル事項

ナ シ

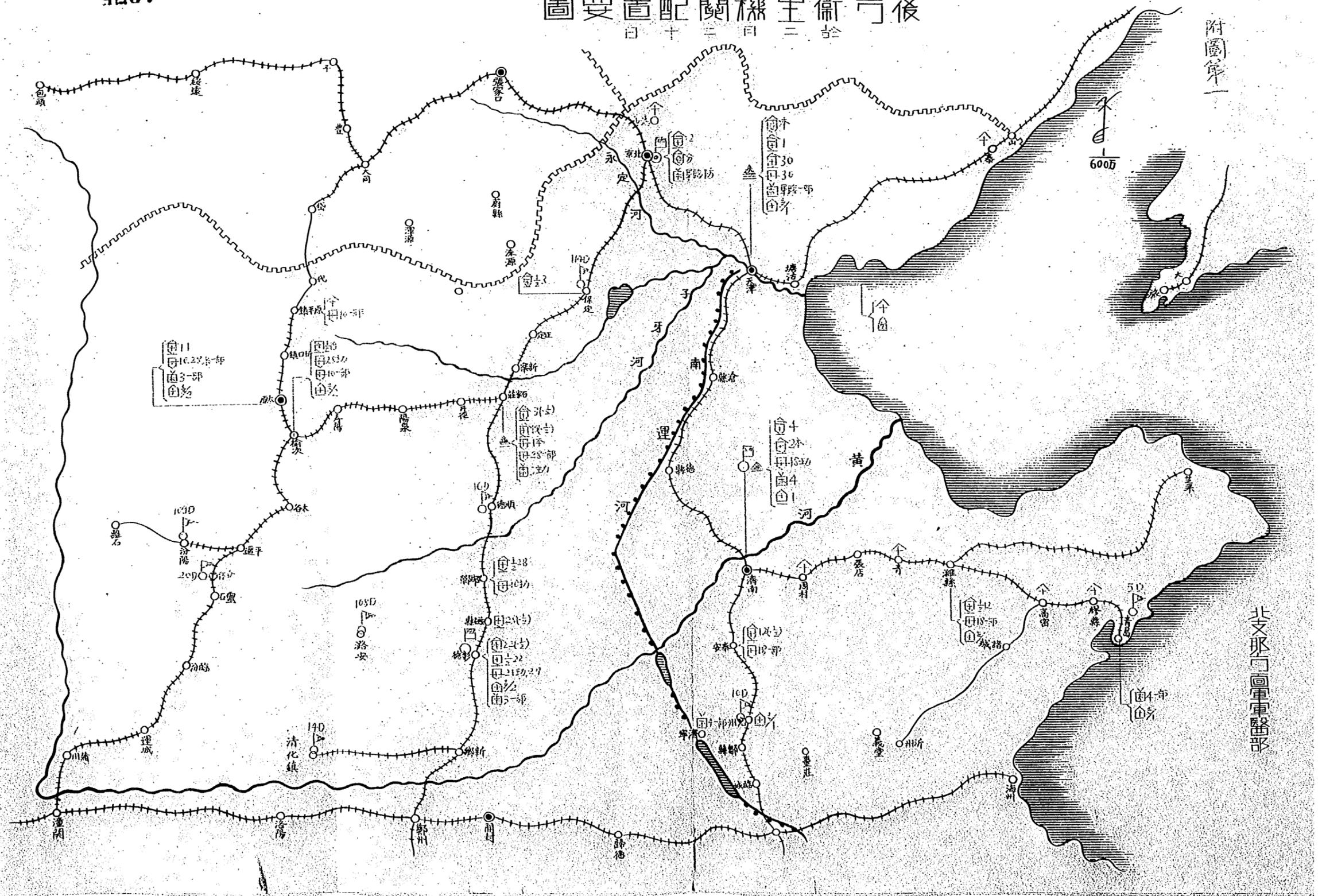
八 意見

ナ シ

# 後方衛生機關配置要圖

於三月二十日

附圖第一



支那地圖電報部

